

社会教育研究部門

「教育と公共」研究部会（第24回）

日時：2021年4月9日（金）13:00～15:40

場所：オンライン（Zoom使用）

出席：田嶋一・浅井幸子・上野正道・狩野浩二・仲田康一・藤井佳世 各兼任研究員
吉久知延所長・金沢千秋・山口和人・川上智子（野間教育研究所事務局）

内容：（1）藤井研究員：「学校と関係機関等の連携と公共圏—Mark Murphy の議論を手掛りに」

◆ハーバーマスによる「生活世界の植民地化」論

- ・近代社会における官僚化＝生活世界の合理化による、システム（経済と国家）と生活世界の分断の結果、二層の社会構造（システムと生活世界）が生まれる。生活世界の構成要素は文化、社会、人格
- ・システムと生活世界の交換関係 → 生活世界は私的領域と公共性の領域から、貨幣と権力を媒介し、システムに関連する → 「生活世界の植民地化」

◆Mark Murphy の議論：論文紹介：Forms of Rationality and Public Sector Reform：Habermas, Education and Social Policy(2010)

- ・「国家の政治的アジェンダを追求・維持することと、資本主義が新たな富の創造の道を開拓することにより、市民の生活に影響を与える決定が権力や金銭というボトムラインに基づいて行われることが多くなった」（Murphy 2010: 82-83）
- ・ハーバーマスのシステムと生活世界の「交換関係」に着目、公共政策を経済用語で解釈し改革することへ警鐘 → 公共圏として学校を捉え直す必要性

（2）浅井研究員：「公教育をめぐるメモ」および「レッジョ・エミリア市の幼児教育における公共性の展開」

◆「公教育をめぐるメモ」：「公教育」とそれ以外の教育は、①国や公共団体の関与②公開性③教育の目的と内容の公的・公共的・社会的性格④「教育を受ける権利」の保障、という4点において区別（「教育思想事典」）。ここには「common 共通性？」が位置づいていないように思われる。近年は①②を強めつつ「共通性」については解体していく方向性か

◆「レッジョ・エミリア市の幼児教育における公共性の展開」

- ・ドキュメンテーションとはイタリアのレッジョ・エミリア市の幼児教育において成立した記録の様式：その成立理由、目的、成果、評価、展望を考察。

・次回研究会 5月14日（金）13:00～